

令和5年度 学校評価報告書

園 名	三 輪 幼 稚 園
-----	-----------

1 教育目標

『元気いっぱい みわっ子』

- ・友達と協力できる子どもを育む
- ・やさしく思いやりのある子どもを育む
- ・自分で考えて行動する子どもを育む

(八景中学校区共通目標)

人も自分も、学校(園)もふるさとも 大切にできる子

2 重点目標

「一人一人の育ちと学びをつなぐ」

～学びの芽生えを育む教師の援助の
あり方を探る～

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	学びの芽生えを育む保育内容の工夫 ・安心感、居場所感を基盤に、自ら考え、夢中になって遊び込むことができる環境構成や援助の工夫 ・3年間を見通した、個の成長と集団の育ちの保障	・一人一人の興味、関心を探り、その子らしさが発揮できるような環境構成や援助の工夫に努めた。“やりたい”“やってみたい”という意欲を高め、夢中になって遊び込む姿が見られるようになった。 ・より深い幼児理解に努め、幼児が安心感、居場所感を基盤に、自分たちで考え、選び、決めることができる環境構成や援助の工夫に努める。
	しなやかな心や体を育む取り組みの工夫 ・「わくわく体操」を基盤とした体づくりの推進 ・幼児の興味関心応じ、多様な動きが経験できる場づくりの工夫	・「わくわく体操」に異年齢で取り組むことで意欲や達成感、友達を思いやる気持ちなど、個々の内面の育ちが見られた。 ・姿勢の保持をはじめ、すべての動きの基礎作りをめざして取り組みを進めた。課題として、園生活や遊びの中で経験している体の動きを捉え、発達段階に応じた基本的な運動の種類や動きを経験できるよう、芝生園庭や園内環境を活用して工夫していく。
特別支援教育	幼児一人一人の発達や課題に応じた、きめ細やかな支援の工夫	・一人一人の幼児の内面理解や発達の特性の理解に基づき、援助のあり方を教職員で共通理解し、個に応じた支援が充実するように努めた。 ・関係機関との連携に加え、保護者の願いをしっかりと受けとめ、成長発達につなげていくと共に、小学校へ丁寧に引き継いでいく。

4 学校関係者評価

・子どもたちが自分たちで考え、遊びや生活を進めていく姿が見られ、豊かな学びにつながっていると感じた。
・久しぶりに3学年合同で行事が実施され、1年の積み重ねの大きさを感じた。

・わくわく体操や芝生園庭を活用した取り組みにより、心と体が育まれていると感じる。
・幼児期に体幹を整えることは、小学校での学習につながる。継続した取り組みにより、体幹が育ち、意欲や自信につながることを期待する。

・保護者の思いを受けとめ、関係機関と連携しながら支援の充実に努められた。今後も、一人一人の幼児のありのままの姿を受けとめ、個々の特性に応じた援助の工夫に努めていただくことを期待する。

(別紙様式 2)

<p>保護者・地域との連携</p>	<p>地域のよさを生かした園運営の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かにつながりを構築していくことができる活動内容、情報発信の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味や関心、育ちと学びの姿、園の取り組みの様子を発信することで園、保護者、地域が協働し、子どもへのまなざしを共有できるように努めた。 ・保護者や地域からも子ども達の「やってみたい」という思いが実現できるよう協力を得ながら教育活動を進めていくことができた。 ・今後は、幼児の姿を分かりやすく発信できるよう、写真掲示や通信の内容を工夫し、豊かな育ちにつながるよう交流活動の工夫に努める。
<p>子育て支援</p>	<p>親と子の育ち合いの場としての役割や機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子が安心して集える場と情報発信の工夫 ・未就園児との交流、園庭開放等における支援の充実 ・子どもの育ちを支え、保護者に寄り添う子育て相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、保護者、地域の方々にお世話になり折り紙教室、お茶会を開催した。子育て家庭が集い、安心して子育ての相談や悩みを話せるような場となった。引き続き、保護者、地域の方々の参画をいただき、親と子の育ちの場としての役割や機能の充実を図る。 ・年度当初の案内チラシだけではなく、掲示や通信 HP 等での発信に努めていく。
<p>校所連携</p>	<p>保幼小中連携の推進と小学校への円滑な接続の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼、保幼小、幼小交流の推進 ・異校種の職員連携交流の工夫 ・中学校区連携推進への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす子ども像を共有し、相互参観、交流、合同研修を継続して行うことができた。地域の保幼小の職員がつながり、幼児期の「学びの芽生え」や育まれつつある資質、能力を共通のまなざしで見取ることができるようになり、互いの教育の充実につながった。 ・引き続き、実践とカリキュラムの関係性を明確にし、持続可能な円滑な接続に取り組んでいきたい。

<p>4 学校関係者評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA のあり方が変わっていく中、地域も一緒になり、三輪っ子サポーターズとして子ども達の育ちを支えるしくみ作りが大切であると思う。 ・幼稚園から発信する通信等は子どもの活動や教育の意図がよく伝わる。地域にも発信することで幼稚園教育に対する理解が得られるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域住民が参画し、親と子が安心して集う場づくりに努められた。今後も、保護者同志の交流の機会を提供したり、保護者と地域をつなげたりするなど、子どもを育てる喜びを味わえるような支援、場づくりを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼児教育施設、小学校との交流等の連携、接続により、子ども達が安心感をもつと共に就学への期待につながっていると思う。今年度の研究における取り組みが次年度以降も継続した取り組みとなるよう期待する。

5 総合的な評価結果

- ・幼稚園生活の全体を通して、ありのままの幼児の姿を受けとめ、より深い幼児理解に努めると共に援助や環境構成の工夫に努めた。
- ・地域の保幼小の職員がつながり、幼児期の「学びの芽生え」や育まれつつある資質、能力を共通のまなざしで見取ることができるようになり、互いの教育の充実につながった。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具現化を図り、学びの連続性を意識した保幼小の接続を推進していききたい。

6 総合的な学校関係者評価

- ・子どもたちが生きていく未来は、人とのつながりを紡ぎ、異なる意見も取り入れ、新しい考えを生み出していくことが大切になる。その土台となる力が幼児期に育かれていると感じる。
- ・ありのままの姿を受けとめ、一人一人のよさを伸ばす関わりの中で個の育ちと集団の成長が見られた。
- ・園の取り組み等の情報発信により幼稚園教育に対しての理解がさらに深まると思う。